

2026年05月23日(土) 日本農業新聞 総合3面12版遅

# 石垣牛市場拡大へ

## 協議会設立5年、出荷量着々

石垣牛流通協議会は22日、東京都内で通常総会を開いた。首都圏での消費拡大を目指す

て設立し、今年で5年を迎えた。年間の出荷頭数は設立当初に比べ3割多く、増加を続ける。食肉処理場の輸出認可を進め、新たな市場拡大につなげる。

石垣牛は、日本の南西端に位置する石垣島で生まれ、統一飼料で肥育する。さっぱりとした肉質と脂身の甘さが特徴だ。2021年の設立当初、800頭程度だった出荷頭数は、25年度には1000頭を超えた。

今後は輸出にも注力する。島内の八重山食肉センターでは、過去にマカオへの輸出実績がある。新たな市場として台湾とシンガポール向けの認可取得を目指す。石垣牛200頭を育てるJA石垣牛肥育部会の上江洲安生部会長は「輸出がかなえば生産量の増加につながる」と意気込む。

植村光一郎会長は「品質の向上こそがブランド確立の近道。10年、20年と続けていきたい」と展望した。役員には植村光一郎会長らを再任した。

(廣田泉)

©日本農業新聞 無断複製転載を禁じます。